

## 8. 女性の人権について

### (1) 配偶者や交際相手からの暴力について

問 18. あなたは、これまでに配偶者や交際相手から、次のことをされたことがありますか。また、身近な人で同様の経験をした人がいますか。該当するものに○をつけてください。

配偶者や交際相手からの暴力について、回答者自身について尋ねたところ『経験がある』（＝「何度もあった」＋「1・2度あった」）人の割合が最も高いのは「なぐる、ける、物を投げつける、突き飛ばすなどの身体に対する暴力を受けた」（16.6％）で、次いで「人格を否定するような暴言や、交友関係を細かく監視するなどの精神的な嫌がらせを受けた、自分や家族への脅迫を受けた」（11.5％）、「いやがっているのに性的な行為を強要された、あるいは避妊を拒否された、あるいは中絶を強要された」（6.3％）の順となっている。

また、身近な人で同様の経験をした人がいると回答した人の割合も、同様の順番となっている。

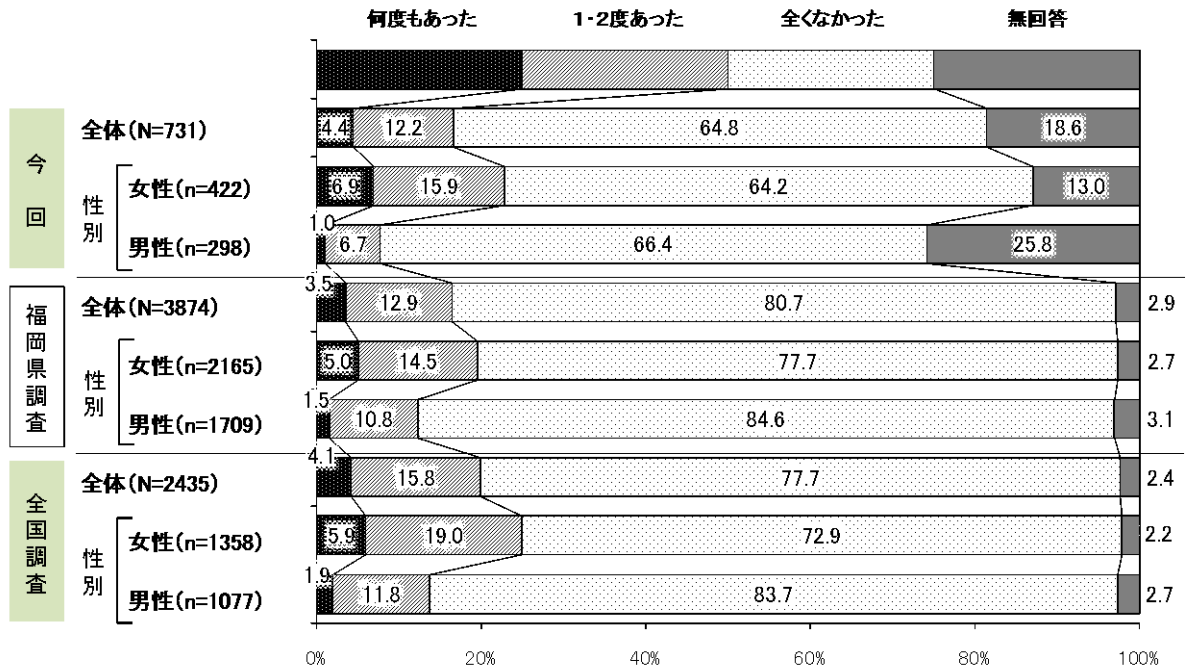
性別にみると、『経験がある』人の割合は、男女ともに全体と同様の順番となっており、いずれの行為についても女性が男性を大きく上回っている。身近な人で同様の経験をした人がいる人についても、同様の傾向となっている。

国の調査と比較すると、『経験がある』人の割合は、全体では「なぐる、ける、物を投げつける、突き飛ばすなどの身体に対する暴力を受けた」で、国の値（16.4％）を若干ではあるが上回っており、特に女性で国の値（19.5％）を3.3ポイント上回っている。また女性では、「人格を否定するような暴言や、交友関係を細かく監視するなどの精神的な嫌がらせを受けた、自分や家族への脅迫を受けた」でも国の値（14.4％）を上回っており、大川市では全国と比べて女性が配偶者や交際相手から暴力を受ける割合が若干高い傾向がみられる。

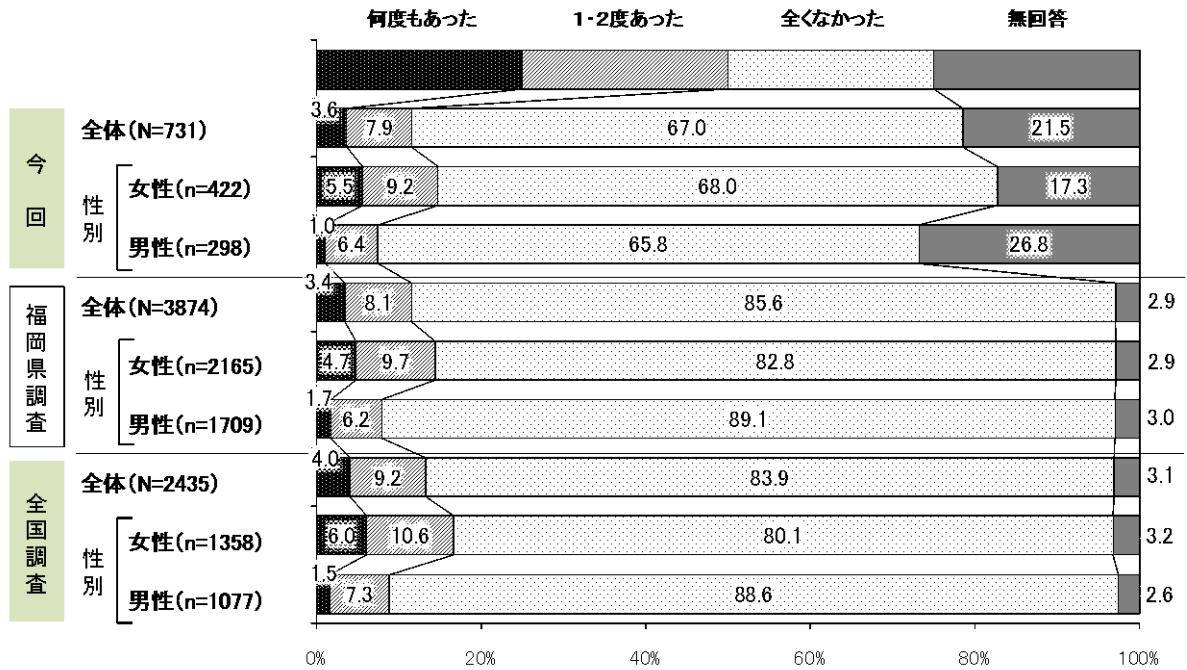
福岡県の調査と比較すると、『経験がある』人の割合は、全体、男女とも、いずれの行為についても県の値を下回っている。

■ 配偶者や交際相手からの暴力について（全体・性別） ■

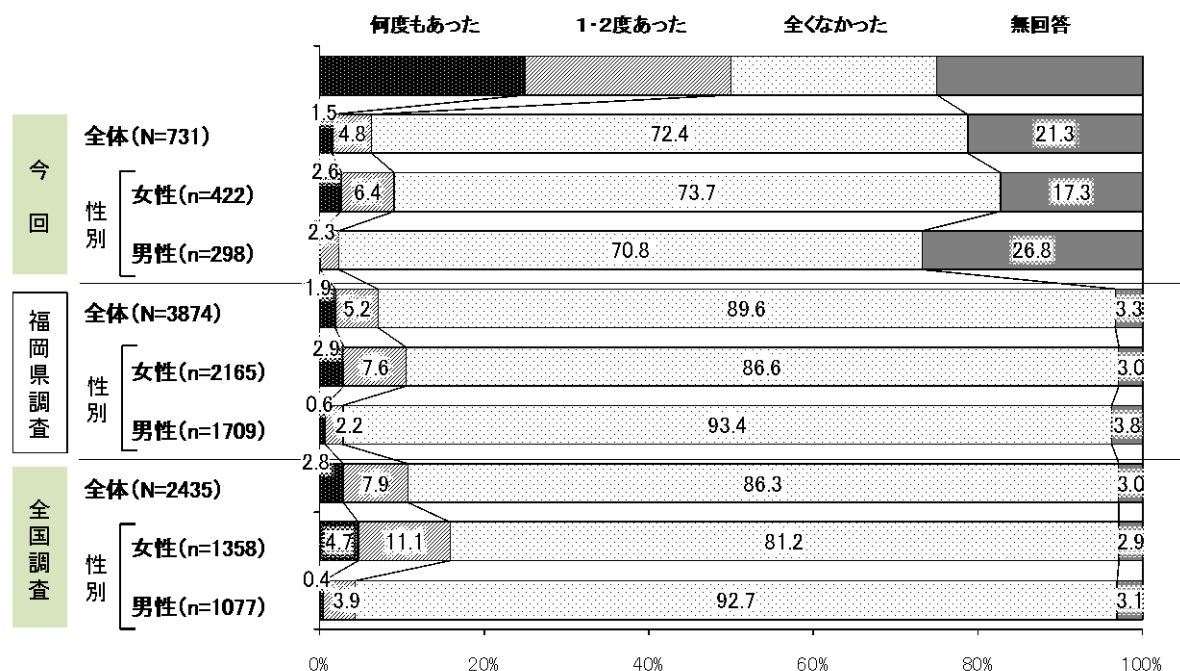
《なぐる、ける、物を投げつける、突き飛ばすなどの身体に対する暴力を受けた》



《人格を否定するような暴言や、交友関係を細かく監視するなどの精神的な嫌がらせを受けた、自分や家族への脅迫を受け》



《いやがっているのに性的な行為を強要された、あるいは避妊を拒否された、あるいは中絶を強要された》



性・年代別にみると、「なぐる、ける、物を投げつける、突き飛ばすなどの身体に対する暴力を受けた」と回答した人の割合は女性では40～50歳未満（31.9%）、60～70歳未満（27.3%）、30～40歳未満（24.2%）の順となっている。また男性では70歳未満（13.1%）と40～50歳未満（12.9%）が1割以上となっている。

身近に経験した人がいると回答した人の割合は、女性の20～50歳未満、男性の20～30歳未満で1割以上となっている。

「人格を否定するような暴言や、交友関係を細かく監視するなどの精神的な嫌がらせを受けた、自分や家族への脅迫を受けた」と回答した人の割合は、女性で40～50歳未満（25.0%）、30～40歳未満（19.4%）、60～70歳未満（14.2%）の順となっている。また男性では50～60歳未満が10.4%と1割を超えている。

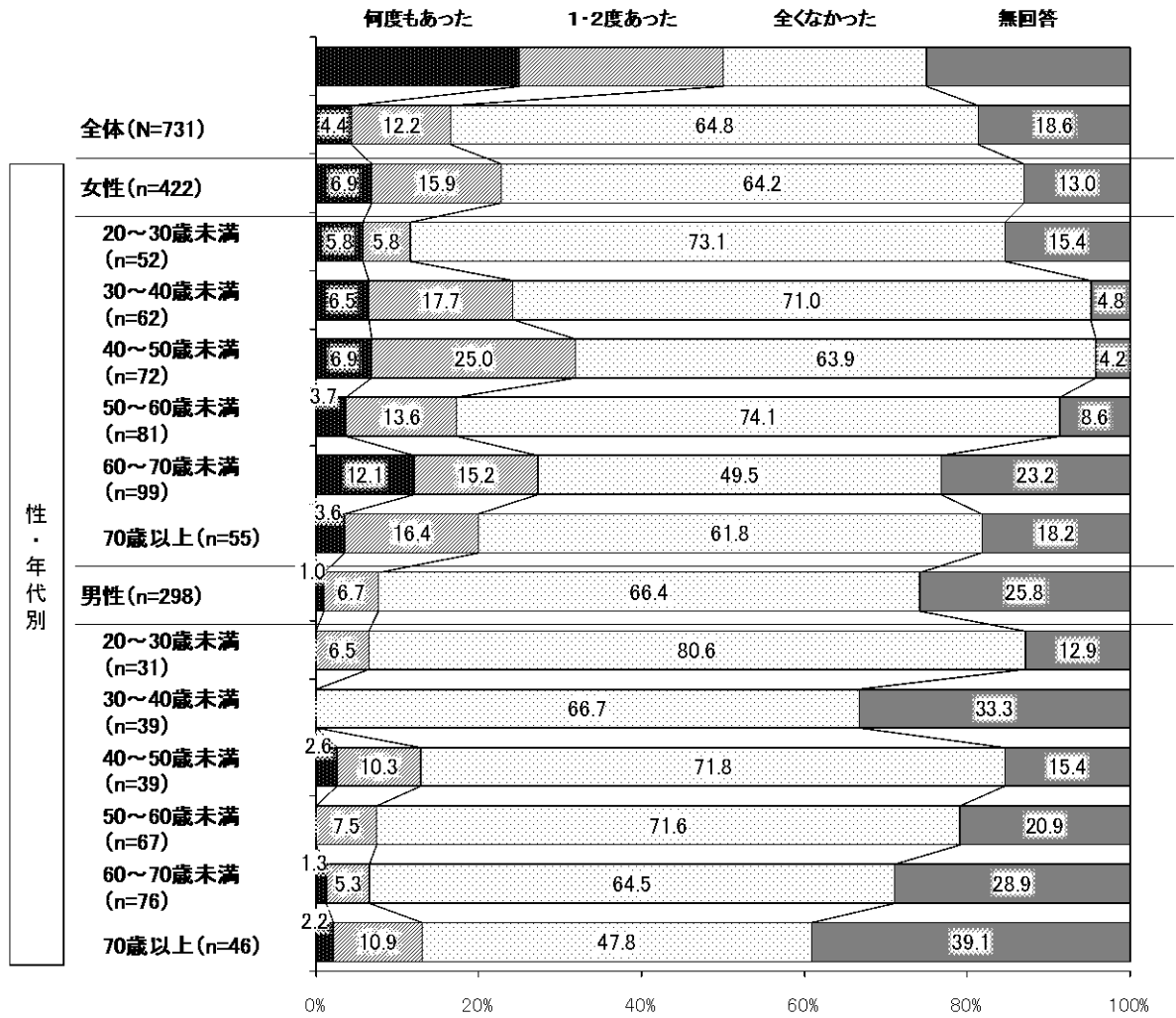
身近に経験した人がいると回答した人の割合は、女性の30～40歳未満（12.9%）で1割以上となっている。また20～30歳未満では、男性の割合が女性を上回っている。

「いやがっているのに性的な行為を強要された、あるいは避妊を拒否された、あるいは中絶を強要された」と回答した人の割合は、40～50歳未満（18.0%）30～40歳未満（17.7%）で2割程度を占めている。

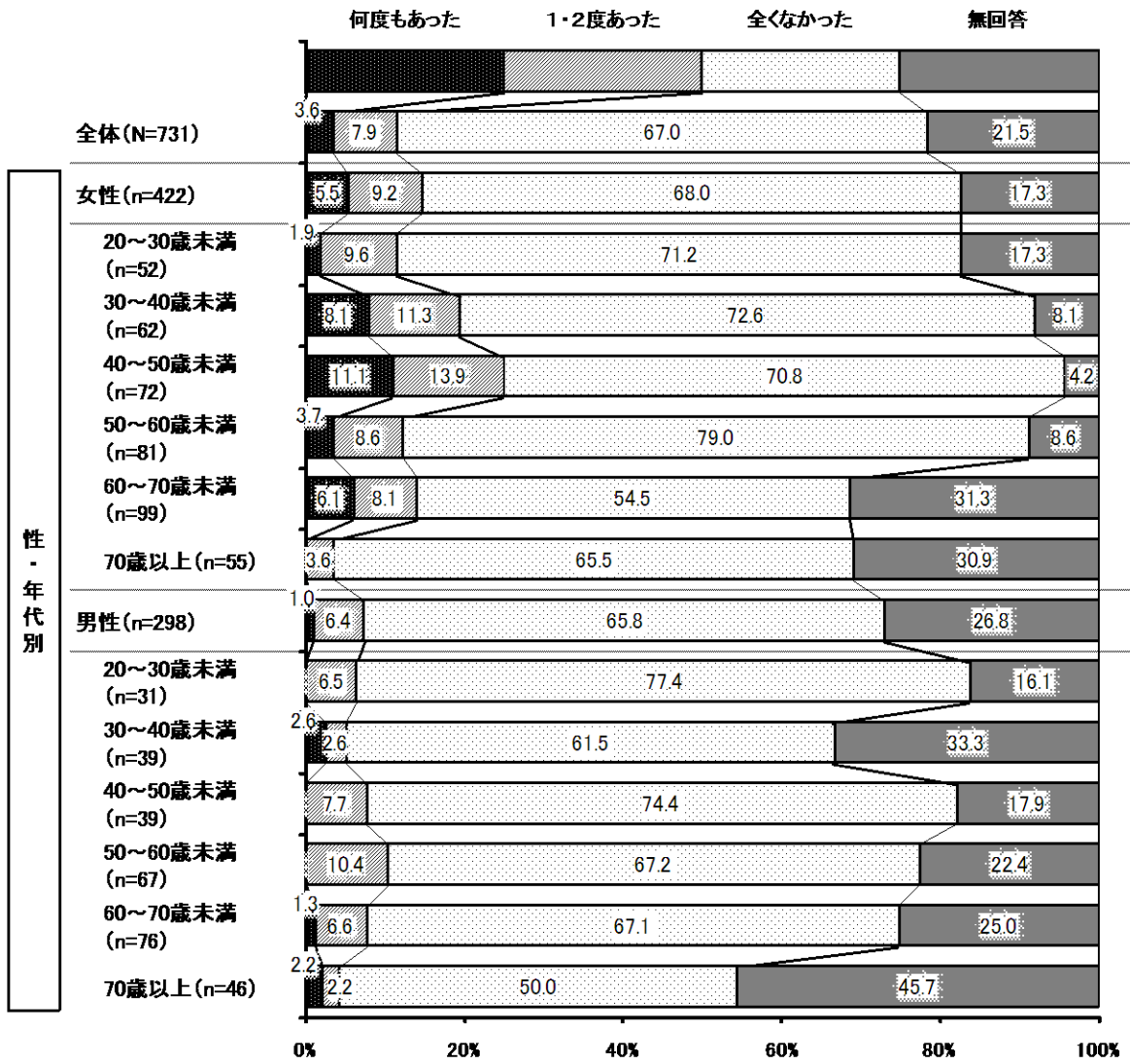
身近に経験した人がいると回答した人の割合は、男女とも20～30歳未満の割合が最も高くなっている。また20～30歳未満と60～70歳未満では、男性の割合が女性の割合を上回っている。

■ 配偶者や交際相手からの暴力について（性・年代別） ■

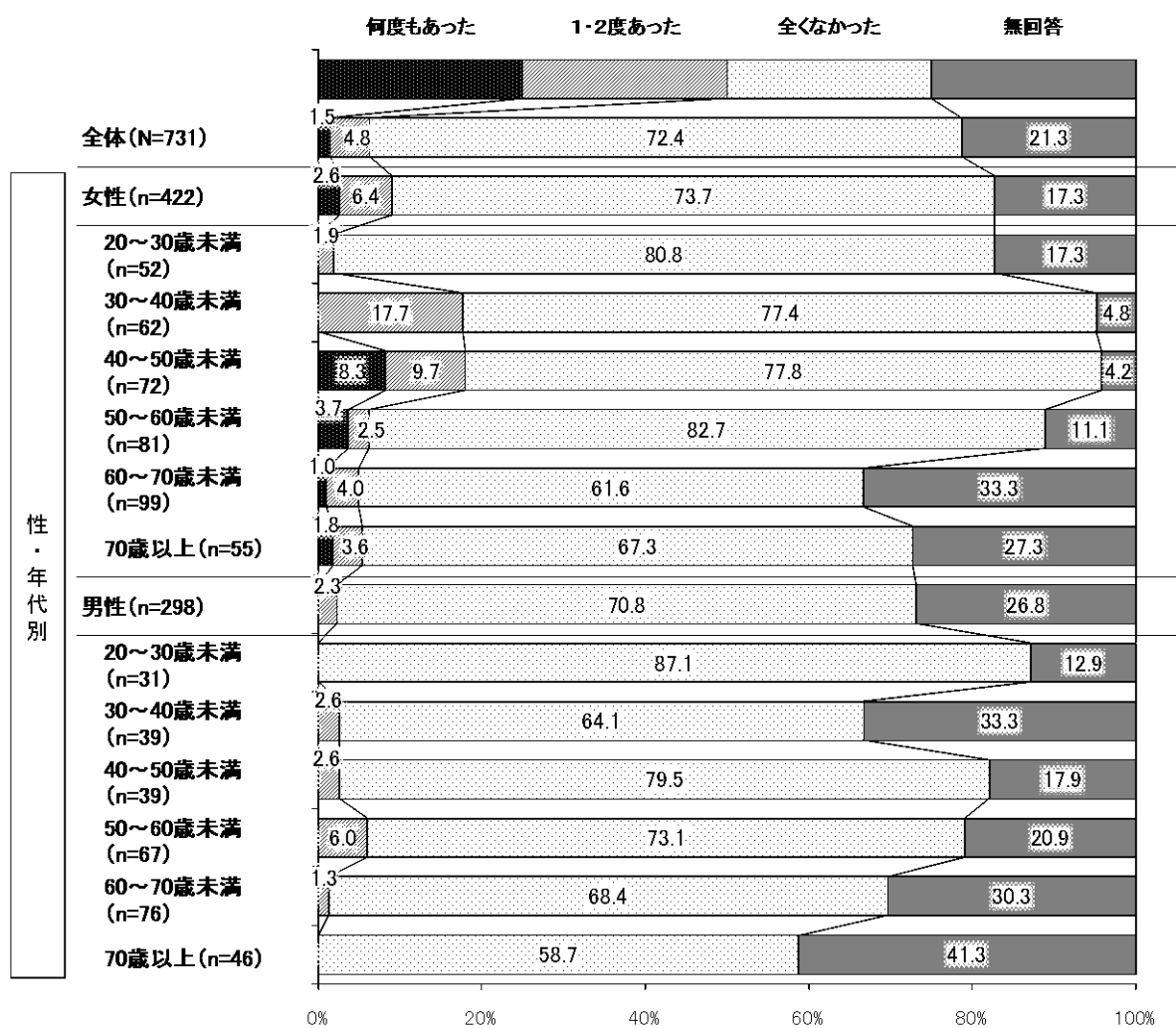
《なぐる、ける、物を投げつける、突き飛ばすなどの身体に対する暴力を受けた》



《人格を否定するような暴言や、交友関係を細かく監視するなどの精神的な嫌がらせを受けた、自分や家族への脅迫を受けた》



《いやがっているのに性的な行為を強要された、あるいは避妊を拒否された、あるいは中絶を強要された》

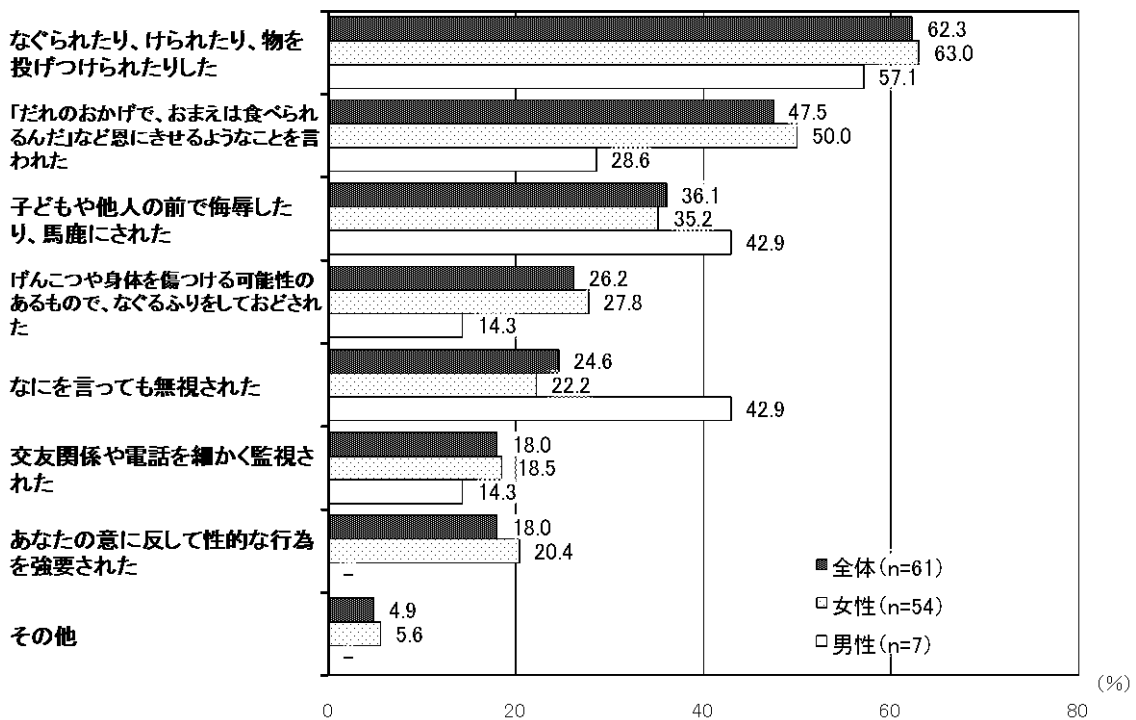
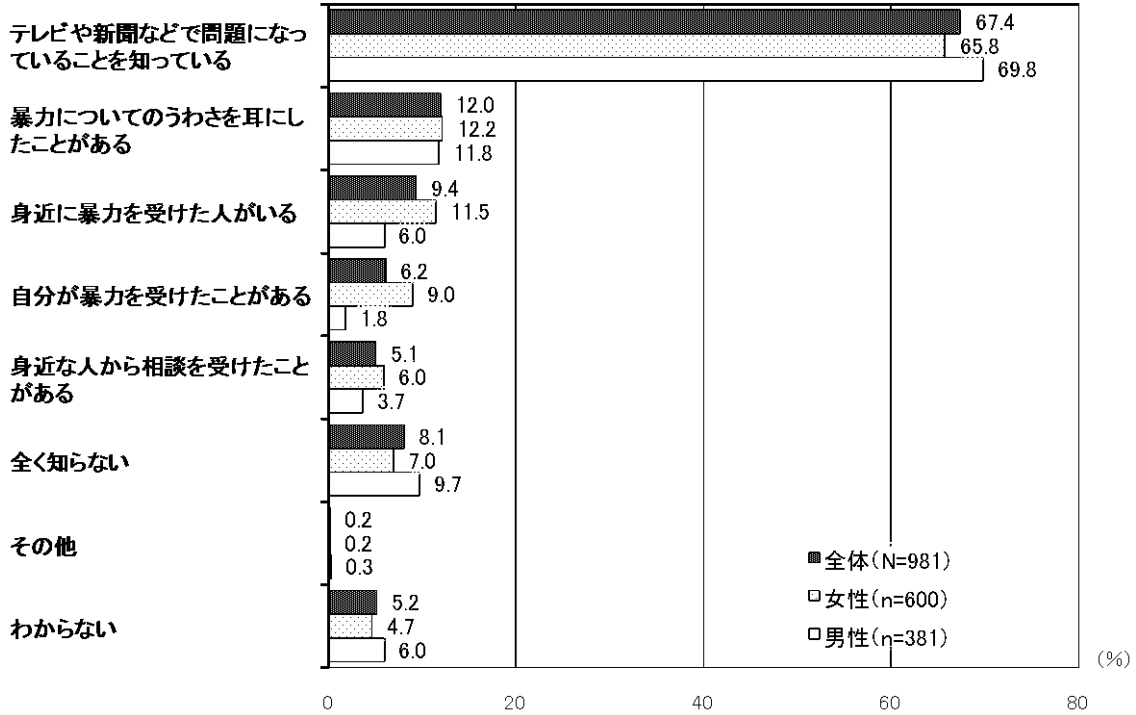


■参考（平成15年度大川市調査）

参考として、前回のデータ（前回の問17とSQ1）を掲載（全体、性別）

横棒グラフ（全体、性別）

※前回の調査とは問の設計が異なるため、安易な比較はできないため。

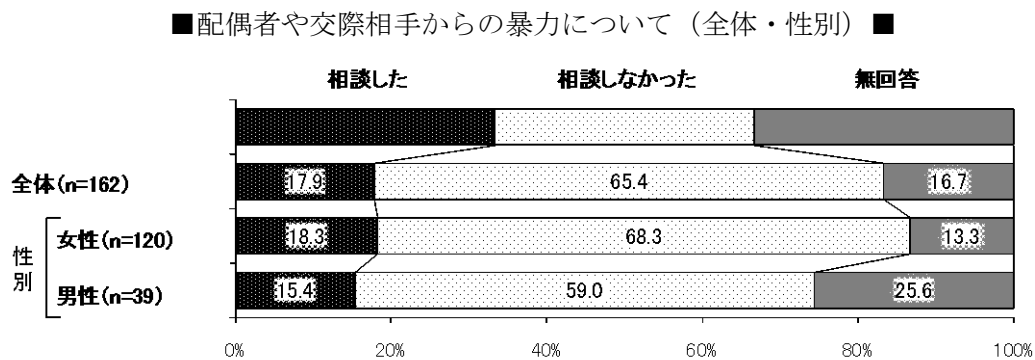


## (2) 配偶者や交際相手からの暴力についての相談

問 18SQ1. 問 18 で「何度もあった」または「1・2 度あった」と答えた方にお尋ねします。あなたは、配偶者等からうけた行為について、だれかに相談しましたか。(○印は1つ)

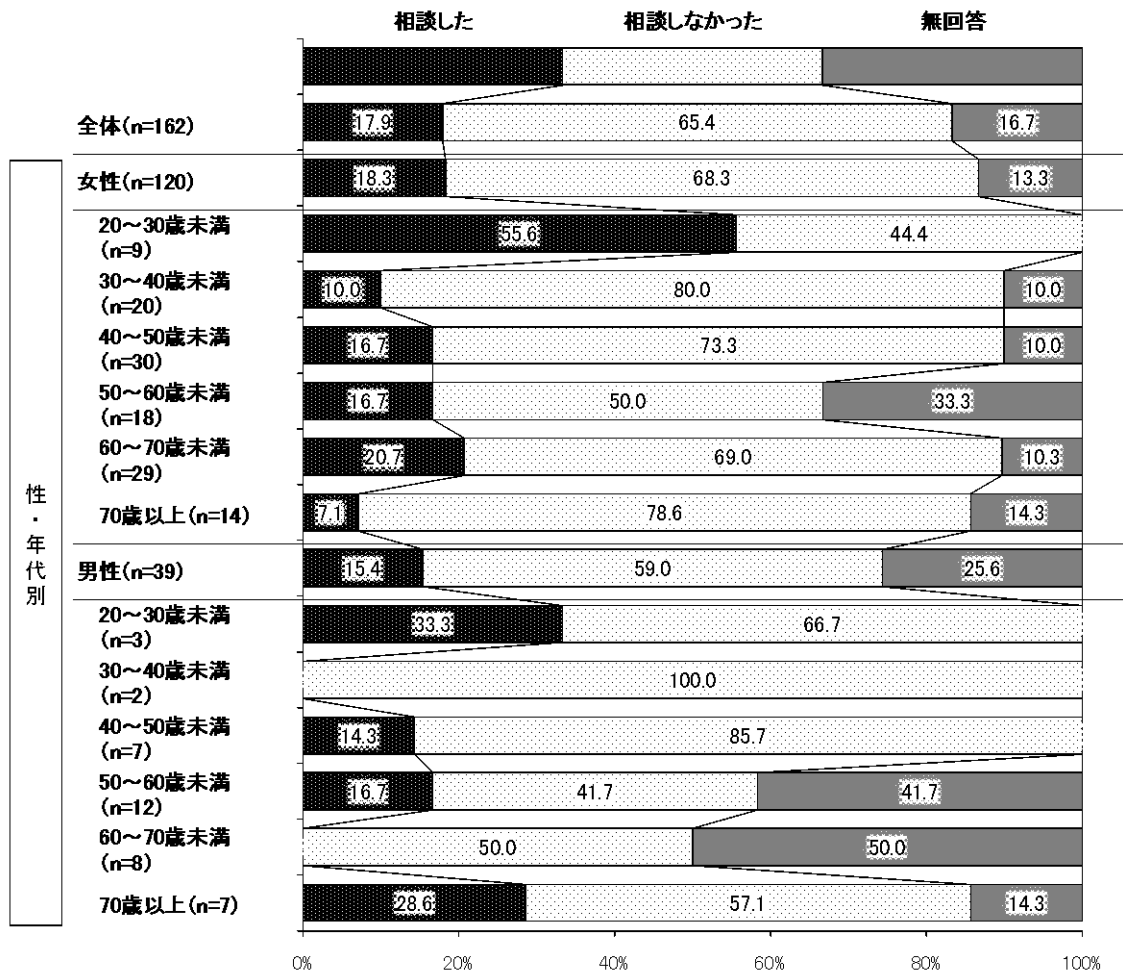
配偶者や交際相手からの暴力を経験した人に、暴力についてだれかに相談したか尋ねたところ「相談しなかった」(65.4%) 人が過半数以上を占めており、「相談した」(17.9%) 人は 2 割程度となっている。

性別にみると、男女とも「相談しなかった」人の割合が 6 割~7 割を占めているが、「相談した」人の割合は女性が 18.3%と男性 (15.4%) を若干上回っている。



性・年代別は、サンプル数が少ないため参考程度の掲載とする。

■ 配偶者や交際相手からの暴力について（性・年代別） ■



### (3) 配偶者や交際相手からの暴力についての相談先

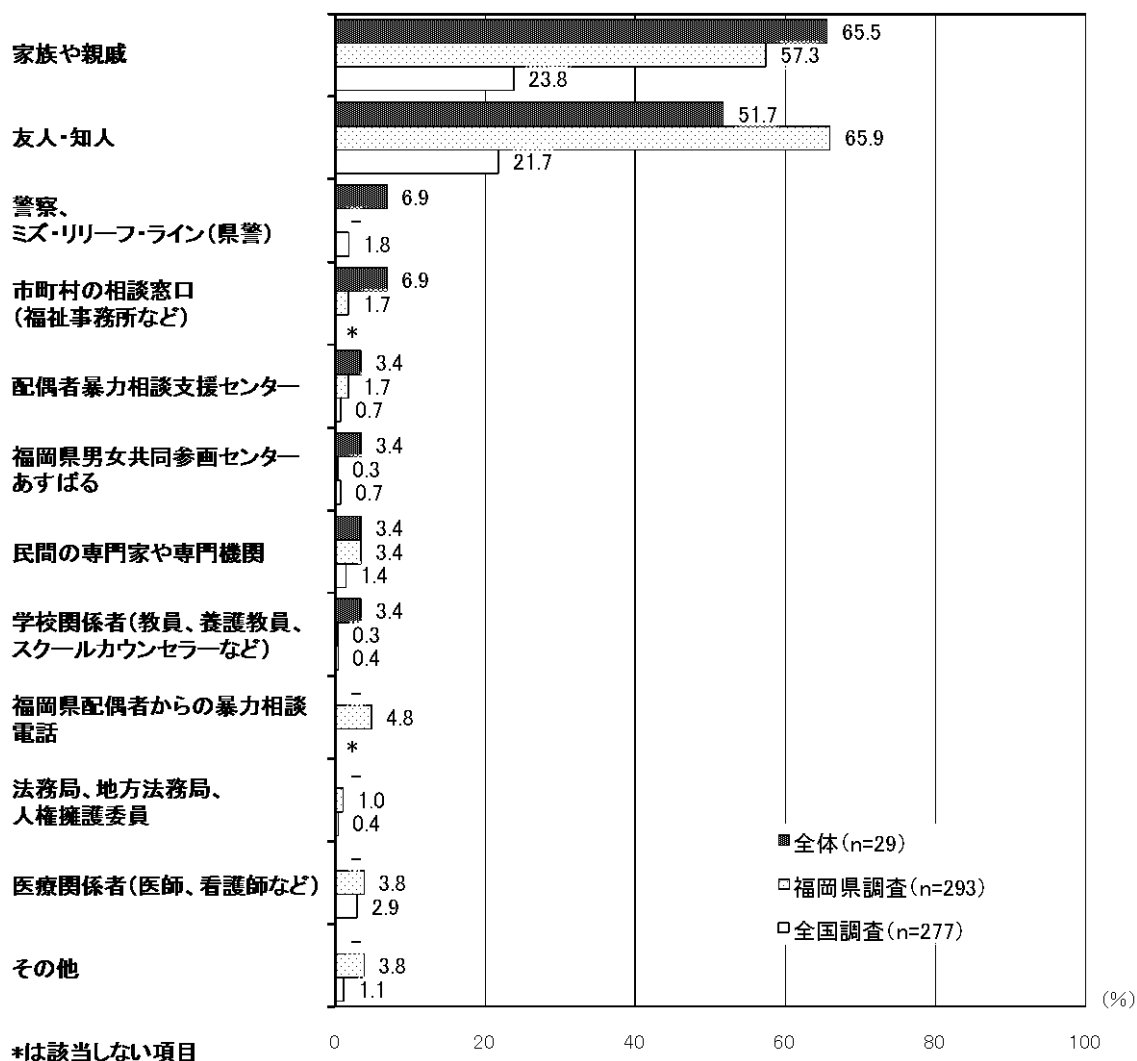
問 18SQ1-SSQ1. SQ1 で「相談した」と答えた方におたずねします。どこに相談されましたか。(〇はいくつでも)

配偶者や交際相手からの暴力を、誰かに相談したと回答した人 29 名に、相談先について尋ねたところ「学校や親戚」(19 名 : 65.5%) と「友人・知人」(15 名 : 51.7%) が群を抜いており、身近な人に相談する人が多く、警察や行政の窓口等に相談する人はほとんどみられない。

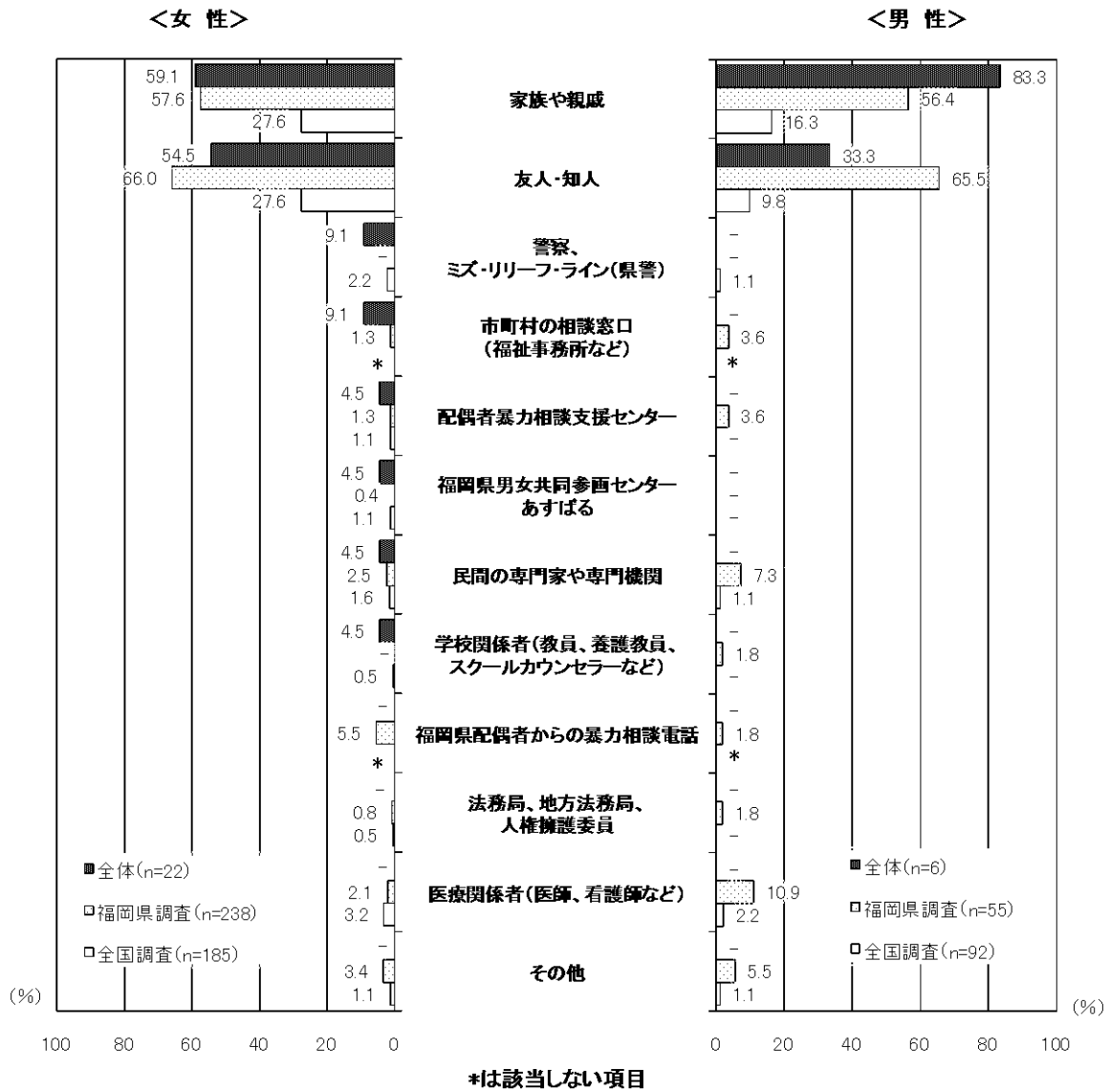
性別については、サンプル数が少ないため参考程度の掲載とする。

福岡県の調査と比較すると、「家族や親戚」の割合は県の値(57.3%)を 8.2 ポイント上回っているが、逆に「友人・知人」の割合は県の値(65.9%)を 14.2 ポイント下回っており、順位も逆転している。全国調査の結果と比較すると、いずれも国の値を大きく上回っている。

■ 配偶者や交際相手からの暴力についての相談先 (全体) ■



■配偶者や交際相手からの暴力についての相談先（性別）■



#### (4) 配偶者や交際相手からの暴力について相談しなかった理由

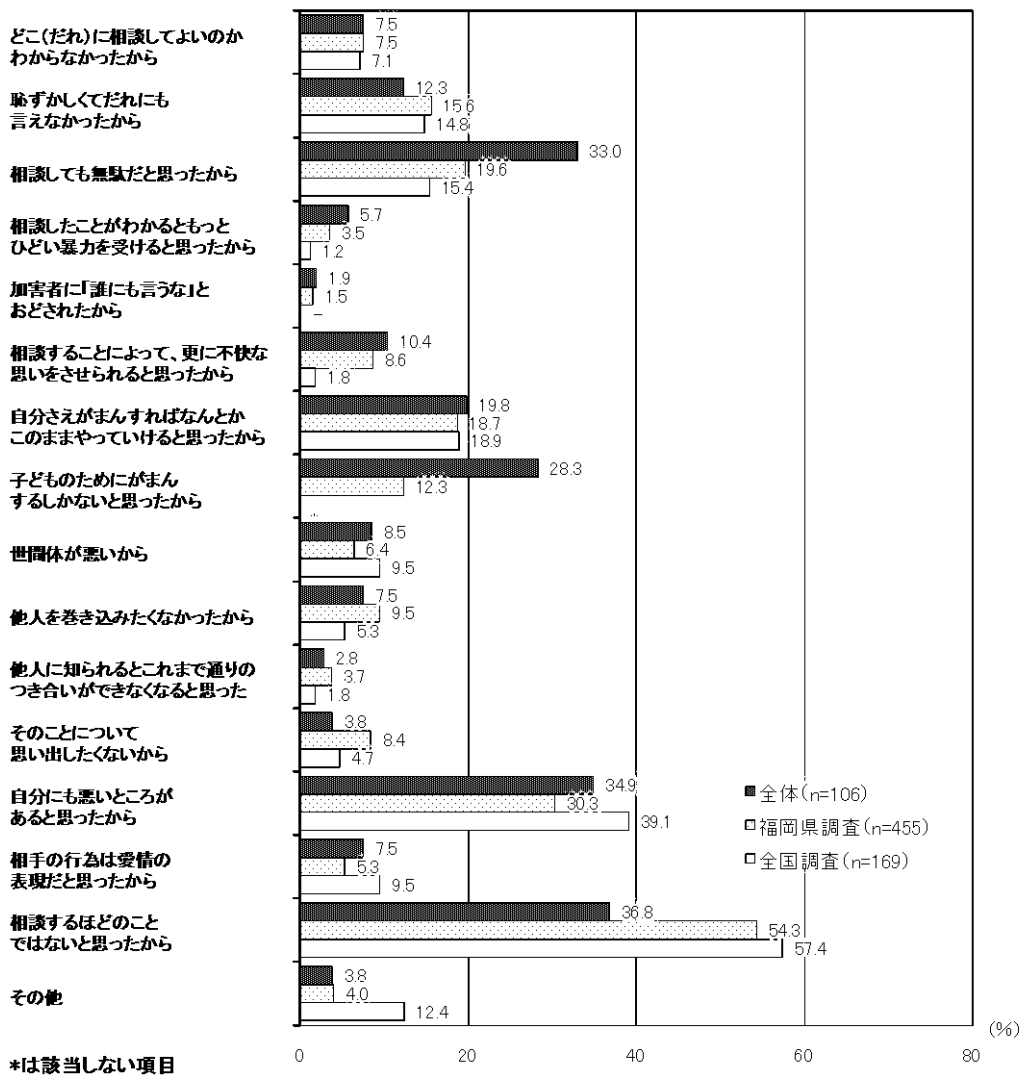
問 18SQ1-SSQ1. SQ1 で「相談しなかった」と答えた方におたずねします。(○印はいくつでも)

配偶者や交際相手からの暴力について「相談しなかった」と回答した人に、その理由を尋ねたところ、「相談するほどのことではないと思ったから」(36.8%)の割合が最も高く、次いで「自分にも悪いところがあると思ったから」(34.9%)、「相談してもむだだと思ったから」(33.0%)、「子どものためにがまんするしかないと思ったから」(28.3%)の順となっている。

福岡県の調査と比較すると、「相談しても無駄だと思ったから」、「子どものためにがまんするしかないと思ったから」の割合は、県の値を10ポイント以上上回っており、逆に「相談するほどのことではないと思ったから」の割合は県の値を10ポイント以上下回っている。

全国調査と比較すると、「相談しても無駄だと思ったから」は国の値を10ポイント以上上回っており、逆に「相談するほどのことではないと思ったから」の割合は県の値を10ポイント以上下回っている。

■ 配偶者や交際相手からの暴力について相談しなかった理由 (全体) ■

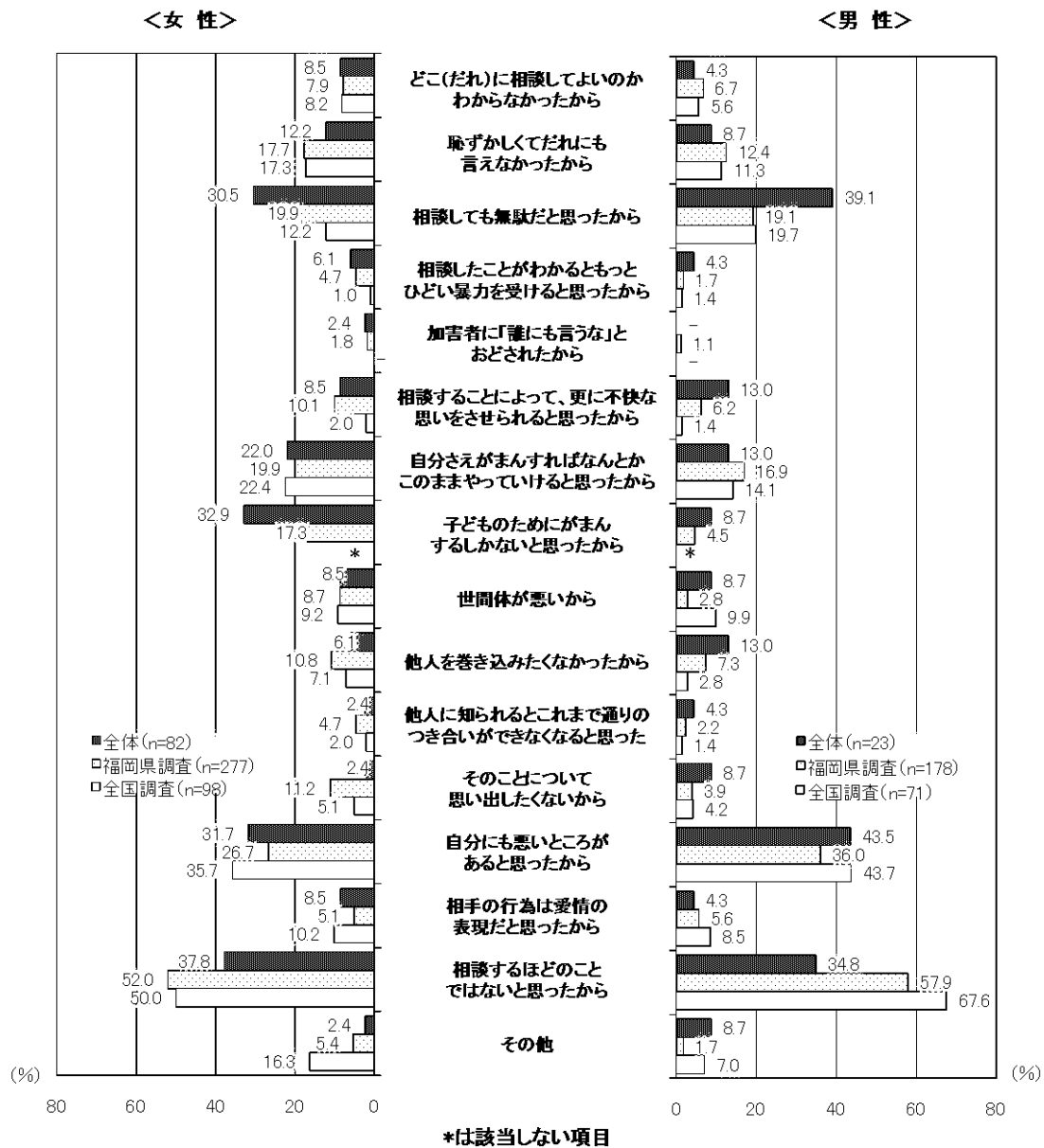


性別にみると、女性は「子どものためにがまんするしかないと思ったから」と回答した人の割合が、女性は32.9%なのに対して男性が8.7%と女性が男性を大きく上回っており、逆に「自分にも悪いところがあると思ったから」は男性が43.5%、女性が31.7%と男性が女性を大きく上回っている。

福岡県の調査と比較すると、「子どものためにがまんするしかないと思ったから」の割合は、男性が県の値を4.2ポイント上回っているのに対して、女性は15.6ポイントも上回っており、男女で傾向に差がみられる。また、「世間体が悪いから」や「そのことについて思い出したくないから」は、女性は県の値を下回っているのに対して、男性では上回っており、男女で逆転している。

全国調査でも、「世間体が悪いから」や「そのことについて思い出したくないから」は、女性は国の値を下回っているのに対して、男性では上回っており、男女で逆転しており、県との比較と同様の傾向がみられる。

■配偶者や交際相手からの暴力について相談しなかった理由（性別）■



性・年代別については、サンプル数が少ないため、参考程度の掲載とする。

■配偶者や交際相手からの暴力について相談しなかった理由（性・年代別）■

	サンプル数	どこ（だれ）に相談してよいかわからなかったから	恥ずかしくてだれにも言えなかつたから	相談しても無駄だと思ったから	相談したことがわかると思つたから	加害者に「誰にも言うな」とおどされたから	相談することによって、更に不快な思いをさせられると思つたから	自分さえがまんすればなんとかこのままやつていけると思つたから	子どものためにがまんするしかないと思つたから	世間体が悪いから	他人を巻き込みたくなかつたから	他人に知られるとこれまで通りのつき合いができなくなると思つた	そのことについて思い出したくないから	自分にも悪いところがあると思つたから	相手の行為は愛情の表現だと思つたから	相談するほどのことではないと思つたから	その他	無回答	
全体	106	7.5	12.3	33.0	5.7	1.9	10.4	19.8	28.3	8.5	7.5	2.8	3.8	34.9	7.5	36.8	3.8	2.8	
性・年代別	女性計	82	8.5	12.2	30.5	6.1	2.4	8.5	22.0	32.9	8.5	6.1	2.4	2.4	31.7	8.5	37.8	2.4	3.7
	20～30歳未満	4	50.0	25.0	25.0	-	-	-	25.0	25.0	25.0	-	-	-	25.0	-	25.0	-	-
	30～40歳未満	16	25.0	25.0	31.3	18.8	6.3	12.5	25.0	43.8	6.3	12.5	12.5	6.3	31.3	-	37.5	6.3	-
	40～50歳未満	22	4.5	9.1	31.8	-	-	4.5	22.7	31.8	4.5	4.5	-	4.5	22.7	9.1	31.8	4.5	4.5
	50～60歳未満	9	-	22.2	44.4	-	-	33.3	11.1	22.2	22.2	-	-	-	55.6	-	44.4	-	11.1
	60～70歳未満	20	-	5.0	25.0	10.0	5.0	5.0	20.0	45.0	10.0	5.0	-	-	35.0	20.0	40.0	-	-
	70歳以上	11	-	-	27.3	-	-	-	27.3	9.1	-	-	-	-	27.3	9.1	45.5	-	9.1
	女性・年齢無回答	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	男性計	23	4.3	8.7	39.1	4.3	-	13.0	13.0	8.7	8.7	13.0	4.3	8.7	43.5	4.3	34.8	8.7	-
	20～30歳未満	2	-	-	50.0	50.0	-	-	-	-	-	50.0	50.0	-	50.0	-	-	-	-
	30～40歳未満	2	-	-	50.0	-	-	-	50.0	-	-	50.0	-	-	-	-	50.0	-	-
	40～50歳未満	6	-	-	33.3	-	-	-	-	-	-	-	-	16.7	50.0	-	16.7	16.7	-
	50～60歳未満	5	-	20.0	60.0	-	-	20.0	20.0	-	20.0	20.0	-	-	60.0	20.0	20.0	-	-
	60～70歳未満	4	-	-	25.0	-	-	25.0	-	25.0	-	-	-	25.0	25.0	-	75.0	25.0	-
	70歳以上	4	25.0	25.0	25.0	-	-	25.0	25.0	25.0	25.0	-	-	-	50.0	-	50.0	-	-
	男性・年齢無回答	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
無回答	1	-	100.0	100.0	-	-	100.0	-	100.0	-	-	-	-	100.0	-	-	-	-	

(単位:%)

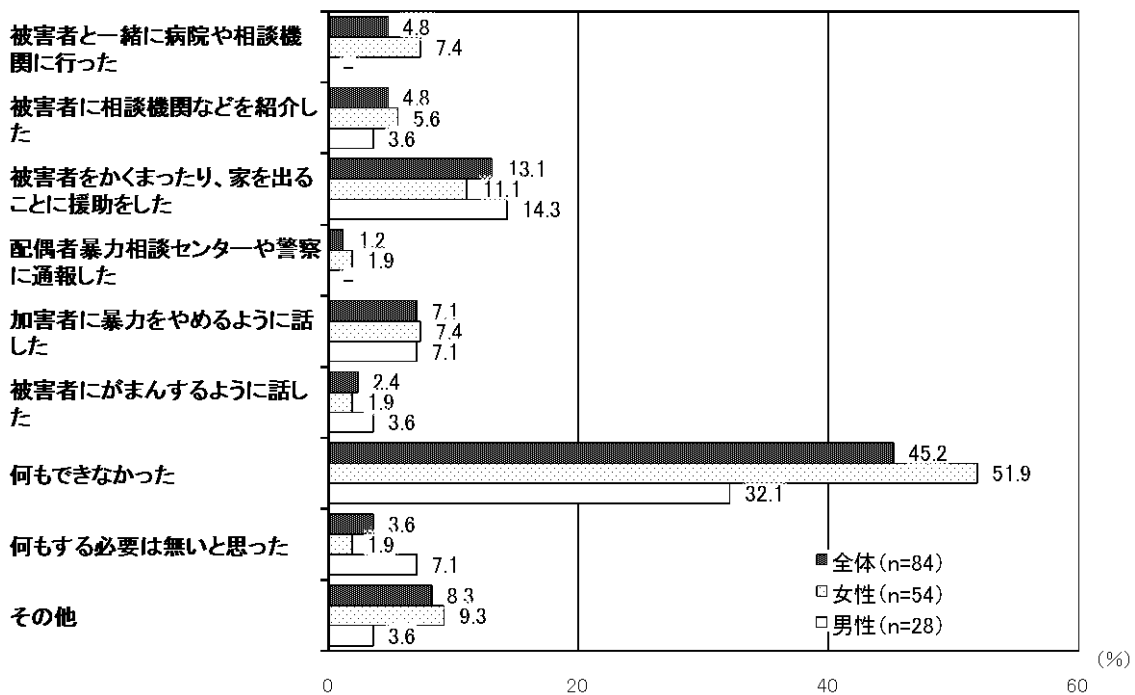
(5) 身近な人が配偶者や交際相手からの暴力を受けていると知った時の行動

問 18SQ2. 問 18 で「身近に経験した人がいる」と答えた方におたずねします。そのことを知ってあなたはどうしましたか。(○印はいくつでも)

配偶者や交際相手からの暴力を、身近な人が受けていると知ったときの行動について尋ねたところ、「何もできなかった」(45.2%)の割合が最も高く、次いで「被害者をかかまったり、家を出ることに援助をした」(13.1%)、「加害者に暴力をやめるように話した」(7.1%)の順となっている。

性別にみると、男女とも「何もできなかった」と回答した人の割合が最も高い。

■身近な人が配偶者や交際相手からの暴力を受けていると知った時の行動 (全体・性別) ■



性・年代別はサンプル数が少ないため参考までの掲載とする。

■身近な人が配偶者や交際相手からの暴力を受けていると知った時の行動（性・年代別）■

	サンプル数	被害者と一緒に関行った	被害者に相談機関などを紹介した	被害者を出ることに援助をした	被害者をかくまったり、警察に通報した	配偶者暴力相談センターに話をした	加害者に暴力をやめるよう話をした	被害者がまんするよう話をした	何もできなかった	何もする必要はないと思った	その他	無回答
全体	84	4.8	4.8	13.1	1.2	7.1	2.4	45.2	3.6	8.3	25.0	
性・年代別	女性計	54	7.4	5.6	11.1	1.9	7.4	1.9	51.9	1.9	9.3	22.2
	20～30歳未満	11	9.1	9.1	18.2	-	9.1	-	63.6	-	9.1	-
	30～40歳未満	13	-	7.7	15.4	-	7.7	7.7	53.8	-	7.7	23.1
	40～50歳未満	10	10.0	-	-	10.0	-	-	60.0	10.0	-	30.0
	50～60歳未満	10	-	-	-	-	10.0	-	60.0	-	30.0	10.0
	60～70歳未満	7	28.6	14.3	14.3	-	14.3	-	14.3	-	-	57.1
	70歳以上	3	-	-	33.3	-	-	-	33.3	-	-	33.3
	女性・年齢無回答	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	男性計	28	-	3.6	14.3	-	7.1	3.6	32.1	7.1	3.6	32.1
	20～30歳未満	7	-	-	-	-	-	-	42.9	-	14.3	42.9
	30～40歳未満	3	-	-	33.3	-	-	-	-	-	-	66.7
	40～50歳未満	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	100.0
	50～60歳未満	7	-	14.3	28.6	-	14.3	-	28.6	14.3	-	14.3
	60～70歳未満	8	-	-	12.5	-	12.5	-	37.5	12.5	-	25.0
70歳以上	2	-	-	-	-	-	50.0	50.0	-	-	-	
男性・年齢無回答	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
無回答	2	-	-	50.0	-	-	-	50.0	-	50.0	-	

(単位:%)

(6) 女性に対する暴力をなくすためにどうしたらよいと思うか

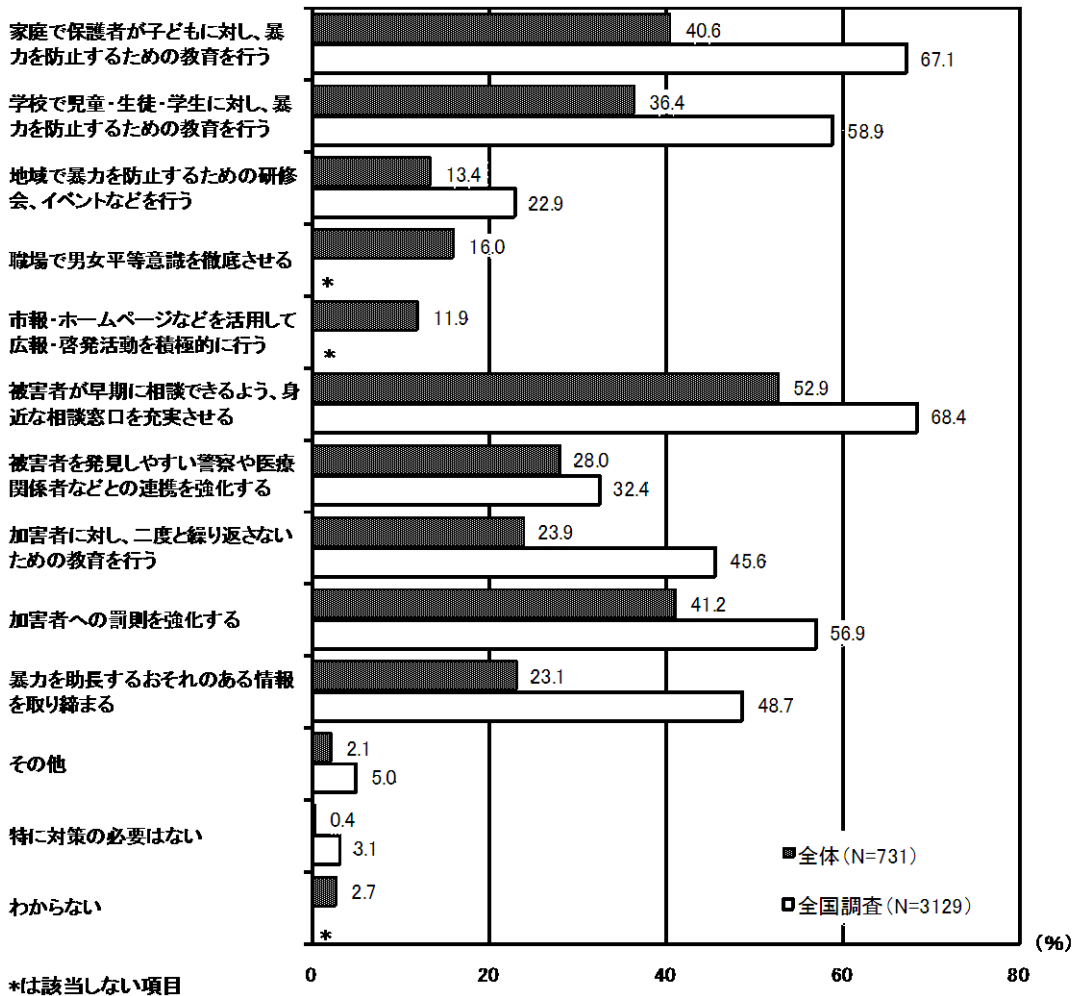
問 19. あなたは、女性に対する暴力（性犯罪、売買春、パートナーからの暴力、セクシュアルハラスメントなど）をなくすためにはどうしたらよいと思いますか。（○印はいくつでも）

女性に対する暴力をなくすためにはどうしたらよいと思うか尋ねたところ、「被害者が早期に相談できるよう、身近な相談窓口を充実させる」(52.9%)の割合が最も高く、次いで「加害者への罰則を強化する」(41.2%)、「家庭で保護者が子どもに対し、暴力を防止するための教育を行う」(40.6%)の順となっている。

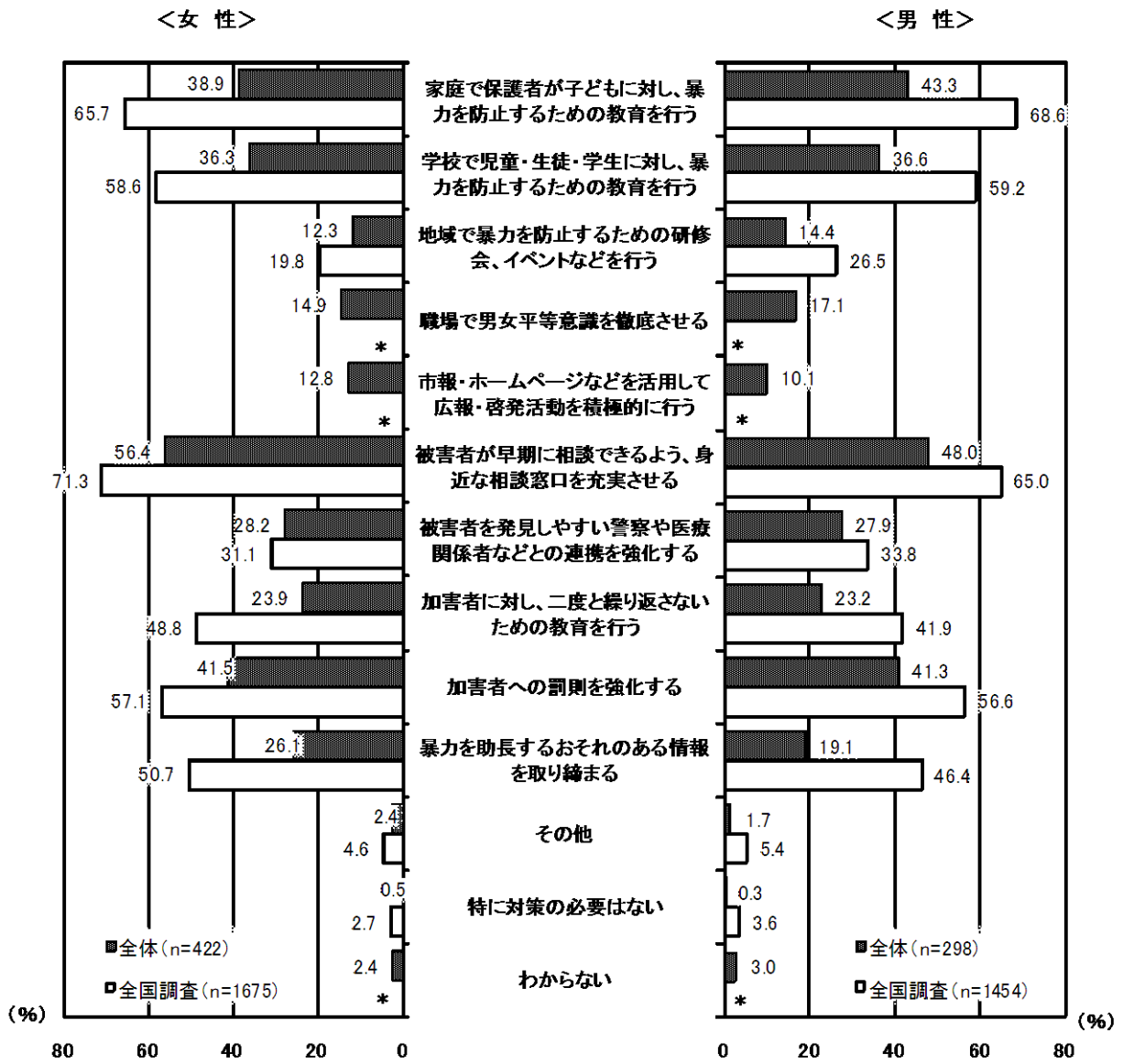
全国調査と比較すると、いずれの項目についても、全体、男女とも県の値を下回っている。

性別にみると、男女とも「被害者が早期に相談できるよう、身近な相談窓口を充実させる」の割合が最も高くなっている。また、男女とも「家庭で保護者が子どもに対し、暴力を防止するための教育を行う」、「学校で児童・生徒・学生に対し、暴力を防止するための教育を行う」、「加害者への罰則を強化する」も4割前後と高くなっている。

■女性に対する暴力をなくすためにどうしたらよいと思うか（全体）■



■女性に対する暴力をなくすためにどうしたらよいと思うか（性別） ■



\*は該当しない項目

